

私の六月二十三日

与那原町立与那原東小学校六年 天久 和呼

私は考えた

「戦争」って何だろう

きつと苦しかったんだろうな

つらかったんだろうな

私は考えた

「平和」って何だろう

今を苦しまずに生きれること？

毎日を楽しく生きれること？

私は思った

「平和」って何だかあやふやだ

私は覚えている

あるとき聞いた あの言葉を

戦争を体験した彼女の

「あるとき、友人と一緒に死ねばよかった」

戦争を生き抜いた彼の

「自分だけ生き残ってしまった」

生きていることへの後悔と申し訳なさを

私は疑問だった

生きるって

誰にもみんなあたりまえにある権利

生まれて生きる生きていたい

それは人も自然も動物も

あたりまえに歩む「命」の道筋

でもそれが壊れていくのが「戦争」なんだ

私はいま、

友達と一緒に遊ぶことが楽しい

学校へ行き新しいことを学ぶこと

琉舞や三線を習って

沖縄の歴史や文化を知ることが好きで

祖父や祖母とおでかけしたり

家族みんなでおいしいごはんを食べる

そんな毎日が大好きで

明日が来るのが楽しみで

こんな日々が未来まで続いてほしいと願う

私はいま生きていることが楽しい

私は想像してみる

八十一年という時間を

あの日あるとき

たくさん命が失われ

焦土と化したこの島を

それから

アメリカ統治と日本復帰

変わったものと変わらないもの

この島と

ここに生きる人々の

歩んできた時間を

そうして感じる

ここまでつむがれてきた

命の尊さ

平和への想いを

私は願う

この島の未来を

あなたと笑い 生きている

今日がずっとこの先も

変わらず続いていくことを

私は生きる

生きて感じて考える

これが私の六月二十三日

沖縄慰霊の日

平和への詩^{うた}